

学生だより

<お国自慢>

神戸だけじゃない兵庫の魅力

鶴田裕真(3年次)

兵庫県といえば神戸市のイメージが強く、自己紹介の折に神戸市以外の兵庫県民は「兵庫出身です」と言う一方、神戸市出身の人は兵庫と言わず、「神戸出身です」と自己紹介するという小癖があります。このように、「神戸こそが兵庫の顔だ!」という雰囲気醸し出す神戸ですが、今回は神戸の影に隠れた歴史の街、姫路を紹介します。

そもそも、兵庫県は都道府県制が始まる前(江戸時代まで)の旧国制では摂津、播磨、但馬、淡路の4ヶ国からなり(気象警報などで今でもこの地域区分が用いられています)、神戸は南東部の摂津、姫路は南西部の播磨に属しています。そして、この旧国制では播磨は畿内ではなく、なんと広島や山口と同じ中国地方に含まれてしまいます。今でこそ一つの県である兵庫県も、世が世なら二つの地方に隔たれてしまう面白い県です。つまり、同じ県内でも地域によって、その歴史的、文化的背景は大きく異なると言えます。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、明治期以来の港町である、モダンでオシャレな神戸

に比べると、姫路は実に古めかしい街です。それには何と言っても、首里城と並ぶ世界遺産の城、姫路城を擁する城下町であることが影響しています。姫路の城および町が整備され、現在の形ができたのは江戸時代の初めであり、実に400年の歴史をもつこととなります。他に有名な城といえば大阪城や熊本城がありますが、これらはすべて現代に再建されたものである一方、姫路城は400年前の姿がそのまま残っています。そして、ただ古いだけではなく、その規模も現存する天守閣の中では最大を誇り、さらに白鷲城の別名で呼ばれるほどの白く美しい城です。春には二の丸広場の桜が見事で、城の白さと相まって最高の景観を成しています。

ところが、この姫路城、現在、平成の大改修中で覆いに隠れて一切見る事ができません。唯一の観光資源と言っても過言ではない城が使えず、街は閑古鳥が鳴いている…かと思いきや、なんと来年度のNHK大河ドラマは姫路を舞台にした「軍師官兵衛」に決定し、観光地として再注目されています。このドラマの主人公、黒田官兵衛は豊臣秀吉の軍師を務めた武将で、天下統一後、福岡藩の基礎を作ったことでも有名です。ちなみに、去年の大河ドラマは神戸が舞台の「平清盛」で、この辺りにも姫路の対抗心が見え隠れしているようにも…

兵庫県の自慢というよりも姫路市の自慢に終始してしまいましたが、兵庫には他にも甲子園で有名な西宮、世界最長の吊り橋明石海峡大橋、松葉蟹の産地香住など魅力的な土地がまだまだあるので、兵庫にお立ち寄りの際には、「兵庫と言えば神戸!

みたいな紋切り型な旅行ではなく、ぜひ兵庫の隅々まで楽しんでください。

